



## 「自ら学び続ける教師に」

揖斐郡小中校長会長 石井幹也

この電話は、通話相手の電話に交換手がつなくものです。私は小学生の時、東杉原（現在のふじはし星の家付近）の小売店から、自宅に連絡するのに使ったことがあります。このタイプの電話は、ベルが電話を発明した翌年 1877 年に日本に入ってきました。1926 年に自動交換機（ダイヤル式）が導入され、1950～1970 年代に「黒電話」が各家庭に普及していきました。その後、1990 年代には一人一人に連絡が取れる時代が到来します。ポケットベルの大流行です。1995 年頃に携帯電話（ガラケー）の利用が本格化し、2010 年頃スマートフォンが普及し、いつでも、どこでも、だれとでも、音声と映像で、会話を楽しめるようになりました。



電話が各家庭に普及するまでに約 100 年を要しているのに、ポケベル→ガラケー→スマホまで約 20 年です。これだけでも社会の変化が加速していることが分かります。子供たちが生きるこの先の未来は、さらに変化の激しい社会となることでしょう。

それだけではありません。子供たちの人生は今より長くなります。2007 年に生まれの子供は、107 歳まで生きる確率は 50%とされています。私たちは、子供たちが変化の激しい社会の中で、100 年生き抜くことができるよう、教育をせねばなりません。では、どんな力を育てる必要があるのでしょ。

私は、まずは 100 年生き抜くための健康な体だと考えます。いくら医学が進歩しても、手術に耐える体力、薬を受け入れる健康な体がなくてはなりません。その次に必要なのは、学びに向かう力・人間性等だと考えます。今後、定年はさらに伸び、雇用のあり方も変わります。社会の変化に対応するために、生涯にわたって、自ら学び続ける必要があります。

私は、子どもに自ら学び続ける力を育むことができるのは、自ら学び続ける教師だけだと考えます。教師は自ら人間性や創造性を高め、子供たちに寄り添い、効果的な教育を行えるよう、常に研修を積み重ねなければなりません。

これからも、個人による自己研鑽、学校における研修、郡教科研究会等での研修をつなぎ充実させる中核として、揖斐郡教育研修センターがあり続けることを、切に願っています。末筆ながら、今年度、揖斐郡の教育の充実のためにご尽力いただいた、揖斐郡教育研修センターの皆様をはじめ関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

# 令和7年度 第37回揖斐郡図工美術作品展 第20回ふれあい作品展

□令和8年1月24日(土), 25日(日), 27日(火)

□来場者数 1,478人

## <図工美術作品展>

	小学校	中学校	合計
入賞者数	261人	163人	424人
最優秀賞	11人	6人	17人
優秀賞	24人	14人	38人
入選	226人	143人	424人

## <ふれあい作品展>

	小学校	中学校	特別支援学校	合計
平面	132人	41人	13人	186人
立体	72人	26人	23人	121人
書写	0人	0人	23人	23人



□講評 (○・・・よかった点 □・・・改善していくとよい点)

### 小学校

- 「重ねる」、「こする」などパスの使い方に工夫が見られ、深みのある表現につながっていた。
- 水彩画では、水の量を工夫し、混色、重色、スパッタリング等の技法を使って多様かつ丁寧な表現がなされていた。
- 版画では、白黒のバランスがとれていて、細かいところまで丁寧に彫れていた。
- キャラクターを使用しないよう指導援助をしていきたい。
- 写真をもとに描くのはよいが、トレース等でそのまま写すのは避けたい。
- 空き容器を使用した立体作品では、形や大きさや材質を揃える等の規格を統一し、その中で工夫をさせると造形性が高まる。
- 立体作品では、セロテープを使用せず、のりやボンド等を使って工夫しながら接着する指導をしていきたい。



### 中学校

- 対象をよく観察し、明暗を描写することで、質感や立体感がよく表現されている。
- デザインでは、中身の形や使用目的を考慮するなど、機能面、デザイン性に優れた作品が目立った。
- 技能面で指標となるような質の高い作品が多く、郡全体のレベルアップにつながっている。
- 水の量やマスキングテープの使い方等、技能面での指導を充実させ、テーマの表現につなげていくとよい。
- 彫刻作品では、輪郭線を彫るだけではなく、立体感がでるような彫りの技法を指導することで木彫りのよさを生かした作品になるようにしていきたい。
- 地域題材等、題材開発に注力するのはよいが、必然性のある課題設定、生徒の実態に即した指導援助等、1単位時間の指導過程をより充実させていきたい。

## 令和7年度 郡教育研究実践論文事業

揖斐郡教育会では、

- ① 教育の基本的な課題を踏まえた確かな教育理論のもと、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な児童生徒の成長や指導の充実を図った実践を研究論文としてまとめることで自らの教職員の専門性や指導力を高める。
- ② 作成された実践論文に揖斐郡内の教職員が学び合うことで、揖斐郡教育の充実を図る。

の願いのもと郡教育研究実践論文事業を行っています。令和7年度は22点の実践論文の応募がありました。

教科	小学校	中学校	計	教科	小学校	中学校	計
国語	2	1	3	外国語	0	1	1
社会	0	1	1	特別活動	2	1	3
算数・数学	5	0	5	学級経営	1	0	1
理科	1	1	2	特別支援	1	0	1
音楽	0	1	1	図書館教育	1	0	1
保健体育	2	1	3	合計	15	7	22

郡教育研究実践論文に取り組む意義について、審査委員長の市川先生には講評の中で、今後実践論文を書かれる先生方に次のご指導をしていただきました。この視点を大切にして郡教育研究実践論文の更なる充実を図っていきたいと思います。

- 1点目は、理論と実践が結びつき、児童生徒の成長や変容の姿を根拠に基づいて示すことです。「仮説→実践→検証→改善」の過程で、継続的・累積的に一貫した研究実践を進めてください。特に、検証では、児童生徒の行動記録、ワークシートやノート、アンケート、観察記録など複数の視点からデータを集めておくと、論文の信頼性が一気に高まります。
- 2点目は、教育の今日的課題を踏まえるということです。今、学校教育は大きな転換点にあります。子どもたちの学びも、学校の在り方も、これまで以上に柔軟で創造的な対応が求められています。教育の今日的課題は複雑で、解決策は一つではありません。子どもの姿を丁寧に見取り、試行錯誤を重ねながら改善していく姿勢こそが、これからの学校教育を支える力になります。今後ぜひ、子どもたちの学びを中心にすえた実践を積み重ねていただきたいと思います。

※詳細は令和7年度郡教育実践論文集および郡教育研修センターHPの郡教育実践論文ライブラリーをご覧ください。

## 令和7年度 郡教育会研修総会

令和8年1月23日に郡教育会研修総会を実施しました。

令和7年度郡教育研究実践論文の審査の結果、優秀賞4点、入選5点、佳作13点の先生方を表彰するとともに、また、実践論文審査会でいただいたコメント（実践論文のよさ・更によくするための視点）を執筆者の先生方にフィードバックし、今後の実践に生かしていただくようにしました。

令和7年度の郡教育会研修総会では、優秀賞の大野町立大野中学校の畠山丹衣奈先生にプレゼン発表を、大和小学校の永井孝明先生、清水小学校の船戸葉名先生、八幡小学校の小林佑里恵先生にシンポジウム発表をしていただきました。

論文の概要及び郡教育会研修総会のまとめは、『デジタル版 令和7年度揖斐郡教育研究実践論文集』として揖斐郡教育研修センターホームページに掲載しています。



### 郡教育研修総会アンケートより

- 社会科をいかに面白く、生徒が興味をもって取り組めるかを考え、授業を構築されていることが素晴らしいと思いました。将来役に立つ教科だとわかっていても、ただ覚えておけばいいというのでは、生きて働く力にはなりません。それを踏まえて、学びが深まっていく授業を展開してみえることが、子どもたちのまとめから伝わってきました。交流を重ねることで学びが深まり、本物の力になることがよく分かりました。こんな授業が受けられる生徒たちは幸せだと思います。
- 全ての先生方に共通することは、まず実態の把握、そこからの願いをもち、そのための手立て工夫を考え、検証し、さらに改善を講じることです。また、その手立て、工夫の中に、様々な挑戦や準備があると思います。また、どの先生の実践にも自己決定をする場の提供がある。アプローチは様々ですが、教師が粘り強く取り組むことが生徒を育成することにつながると再確認した。目の前の生徒の様子をしっかりと観察して、状況判断をし、その都度修正をしながら、実行していくタイムリーな授業改善ができるようにしていきたいです。
- 研修こそが教員の生命線であるという言葉が、改めて緒を締める思いがして残っています。校内研修を機に、色々と思案する機会はあるものの、異なる視点や話題、分野からの新しい視点をいただき、自己研鑽に努めたいと感じています。

## 「教育相談事業、こんなことをやっています」

当センターでは、次のような教育相談事業を行っています。

○目的 不登校の児童生徒の社会的自立および学校復帰に向けて、個に応じた適応指導・相談活動を行う。

○基本的な立場

- ・個に応じて支援ができるよう実態把握に努める。
- ・人間関係形成能力を養い、自己肯定感を高める指導援助に努める。
- ・家庭、学校、関係機関との連携を密にする。

○対象者 郡内の小中学生とその家族、教職員

○事業内容 教育相談…本人・保護者・先生との相談（来所、電話等）

- ・適応指導…ほほえみ教室
- ・教育相談研修会
- ・各校への訪問相談
- ・主幹教諭との連携会議
- ・臨床心理士との個別懇談
- ・関連図書貸し出し



### 【ほほえみ教室】の活動

不登校の児童生徒の社会的自立および学校復帰を目指して、指導員3名（午前午後で交代し、常時2名体制）で下記のような日程で指導しています。

《基本的な1日の流れ（例）》

9:00～	計画・個人活動
10:00～	学習①
11:00～	学習②
12:00～	昼食
13:00～	掃除
13:15～	運動
14:00～	学習③
14:50～	反省・片付け

基本的には、その日の活動内容を自己決定させた上でそれぞれの活動を行っていきます。また、学習活動においては、児童生徒の所属する学年の教育課程を踏まえ、加えて本人の実態およびペースにあわせて学習を進めるようにします。月末には、学習した内容を学校に報告し、その後どのような学習に取り組んでいくかを相談しながら、指導計画を立てていきます。

当教室の性質上同年齢・異年齢の集団の中でもまれながら交流範囲を広げ、周囲との関わり方を学んでいくという機会がどうしても少なくなりがちです。そこで、自分をコントロールする力や、相手の立場でものごとを考えたり共感したりする力をつけるために、自分の中にある様々な感情に気付かせ、人に気持ちを伝えることができるようにしています。そうすることで「自己選択」する力をつけ、学習に取り組む姿勢づくりを形成していきます。将来学校復帰した際は、一番に関わりがあるのは学習活動であると考えます。それがスムーズできるようになればその後の活動も安心して参加できるようになることが期待されます。

### 【教育相談】の活動

「ほほえみ教室」では、この6年間「愛着障害」「学習障害」「感情コントロール」の三つの言葉をキーワードにしながら在籍児童生徒及び保護者への支援活動を行ってきました。

本人や保護者そして学校のお話を聞いたりして、根本となる原因は何かをさぐり、そのうえで、支援の見通しを持ち、支援活動を仕組んでいます。場合によっては、専門機関の助言もいただきながら、自己選択することから自己肯定感の回復につながるようにしています。また、保護者の願いとして「学力の定着」から将来への進路選択をスムーズにしたいということがあります。近い将来学校復帰し、自らの進路を切り開いていく上で避けては通れない道です。従って、本人や保護者の思いを確かめながら、学習活動に重点を置きつつ、それを確実にできるための感情コントロールに特化しているのが当教室の現状です。児童生徒そして保護者への支援という二つの側面から、支援活動を充実させていきたいと考えています。

また、各学校との連携についても、主幹教諭や教育相談コーディネーターを中心としてより密にしていくと共に今後も迅速に対応していきます。

# 令和7年度揖斐郡教育研究員事業

令和7年度は26名の先生方に郡教育研究員としてご指導いただきました。郡教育研究員派遣事業  
揖斐郡内の教職員の人材育成をめざす。

揖斐郡の教育活動の充実、揖斐郡の教職員の指導力の向上をめざす。

ことを目的とし、教育研究員の先生方には

- ① 要請に応じて全校研究会・部研等の研究会等に参加し、自らの実践に基づいて意見を述べたり、指導助言を行うとともに、自らの資質や指導力の向上にも努める。
- ② 各校の研修会や実技研に参加し、研修会での指導や実技研修の指導を行う。
- ③ 若手教諭の指導を行ったり、自分の実践をもとに授業づくりや各領域の指導のアドバイスをを行う。等の活動でご尽力をいただきました。教育研究員の派遣事業を通して次のような成果がありました。
  - 「自分の成長」指導案、特に単元構想を読みながら、児童の目線でどんなおもいをもつのか、そのためにどのように設定していくかを考え、派遣先に話をした。どちらの学校も担任がすべての児童を見届け、手立てをうつという気持ちがあり、素敵だと感じました。
  - 他校の取組を踏まえた研究を知ること、新たな学びがありました。また、自分自身が教えていただいたことや研究してきたことを広める場となりました。
  - 授業を参観し、若手の知りたいことをふまえながら、授業改善について意見を述べることができました。また、事前にどんなことを伝えるかを考え、これまで学んできた自分の道徳指導についてを振り返ることができました。



## 令和7年度 郡三師会と養護教諭との交流会

令和8年2月18日(水)に大野町総合市民センターにおいて令和7年度の「郡三師会と養護教諭との交流会」を実施しました。

講演では講師の西濃教育事務所 教育支援課課長補佐 山田雄一朗先生より「学校保健安全委員会の運営の仕方や三師会・関係機関の連携について」の演題で講演をしていただきました。

また養護教諭よりの質問に郡三師会の先生にご回答・ご指導をいただきました。



### 講演の概要

- ◇ 健康教育の目的は「行動化」 自ら考え主体的にコントロールできる力  
学校全体で健康教育を実践する (職員の意識を高める)  
⇒学校教育計画に位置付ける 言われないと健康教育は意識されない
- ◇ 学校保健安全委員会と子どもをつなぐ  
健康教育をつなぐ (生徒会・児童会・委員会活動(健康委員会)・学級活動・教科・個別指導)  
参考資料: 健康教育における個別指導の考え方・進め方 (日本学校保健会)
- ◇ 健康教育と家庭・PTAをつなぐ 継続した取組にするために 誰もが同じようにできるようにする
- ◇ 学校保健安全委員会に関する評価(事後活動)  
参加者のそれぞれが行う事後の活動は明確であったか 事後の活動は確実に実施されていたか  
望ましい変容は見られていたか
- ◇ テーマ設定の切り口は自校の児童生徒の実態  
健康教育は子どもを守り育てる学び それを支える養護教諭等の教職員は社会にとって大切な存在  
強く賛同してくれる誰かを巻き込み、健康教育の実践を積み重ねてほしい



### 養護教諭の先生方の感想より

- 学校保健安全委員会が、学校からの報告のみの会にならないように、自校の健康課題から校医の先生方にご指導いただき、その後の活動につなげていきたいです。また、児童が主体的に実践できるように、考えていきたいです。
- 学校保健安全委員会は、健康課題を話し合うだけでなく、学校・家庭・地域をつなぎ実践へ導く重要な組織であることを改めて理解しました。特に、事後の活動を教育活動につなぐ仕組みづくりや、インプットとアウトプットを繰り返す健康教育のあり方が印象に残りました。子どもがリテラシーを身につけ、家庭へ伝えていく流れをつくることの大切さも学びました。今後は、児童の実態やデータを踏まえて焦点化し、協力者を巻き込みながら健康教育を学校全体で推進していきたいと思いをします。
- 三師会の先生方からご回答いただいた内容は、日々対応する中で、判断に迷うことも多い場面のことだったため、とても学びになりました。早速、活かせるところからどんどん実践していきたいと思いをします。
- 日頃からの困りごとが専門的な立場からの確に説明していただけたので、自信をもって執務に専念できます。各専門医の先生から、直接ご回答いただき勉強になりました。職員にも回覧し共通理解を深めたいと思いをします。

# 郡教育研修センター・郡学校保健会 ホームページ

## 揖斐郡教育研修センター ホームページ

揖斐郡教育研修センターではホームページを随時更新し、揖斐郡教育会事業の充実を図るために活用しています。

郡センターホームページには

- 教育情報「いび」
- 各年度の郡の行事予定
- 児童文化事業（各作品展）
- 読書感想文優秀作品集
- 授業ライブラリー
- 郡教育研究実践論文ライブラリー
- 夏季研修
- 郡教育会研修総会

等の内容を掲載するとともに、

- 郡教育研究員事業のまとめ
- 揖斐郡生成 AI 活用ガイドブック
- 教育相談研修会・こころの相談会

についてのコンテンツ、および各種アンケートの回答のためのフォームや、郡内の先生方が相互にコミュニケーションがとれるように郡教育会掲示板を設置しています。



## 揖斐郡学校保健会 ホームページ

学校保健教育に関しては、「揖斐郡学校保健会ホームページ」を設け、

- 郡学校保健研修総会
- 郡三師会と養護教諭との交流会
- 歯の健康優良児表彰事業
- 郡学校環境衛生調査

などの、揖斐郡学校保健会が大切にしている「郡三師会と学校が連携した郡学校保健教育の充実」への働きかけを行っています。

また70年以上にわたって続けている「いびの子のからだ」（デジタル版）や毎年、揖斐郡学校保健会の活動の記録や、令和4年度に岐阜県全体に向けて揖斐郡学校保健会の取組を発表した「第61回岐阜県学校保健研究大会（揖斐郡大会）」などの記事も掲載しています。

このような取組を通して、養護教諭の先生方だけでなく、揖斐郡内の全教職員および児童生徒・保護者の皆様に揖斐郡学校保健会の取組を知っていただくとともに、連携して揖斐郡の児童の健康教育に貢献できるように取り組んでいます。



# 令和8年度の揖斐郡教育研修センターの取組の重点

## 令和8年度センター運営方針

### ① キーワード

- 揖斐郡の教職員・児童生徒・教育関係者から必要とされる郡センターの運営と事業（郡小中校長会・各校長会と連携を強化した郡教育会事業の推進）
- 「揖斐郡はひとつ（ねらいが明確な事業）」→揖斐郡の児童・生徒の成長と充実感
- 「教職員にとって多様で有効な研修の場」「郡内の教職員が必要とする教育情報」の提供→揖斐郡教職員の資質及び指導力の向上
- 郡センター発信の「ICTの活用」による揖斐郡教育の充実や教職員のスリム化への貢献と郡教育会事業・郡センター事業の成果を維持したスリム化

### ② 令和8年度揖斐郡教育研修センター運営方針と願い

1. 「開かれた研修センター」として、「教職員にとって多様で有効な研修の場」を設けるとともに、「郡内の教職員が必要とする教育情報」を提供する。また揖斐郡小中学校校長会や各町の教育委員会と連携を強化し、教育会事業の成果を高めながらスリム化を図る。
2. 一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己肯定感がもつことをめざした児童・生徒文化事業を工夫して行うとともに、優れた取組や成果を郡内の各学校が共有できるようにする。
3. ほほえみ教室を核にして、郡小中校長会や各校の教育相談カウンセラーと連携し、健康安全や教育相談活動等の充実を図り、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努める。
4. TEAMSによるオンライン会議やグループフォーム、郡センターHPを郡内の教育活動の充実や郡内教職員の事務のスリム化につなげたり、令和7年度に各校に配付した「揖斐郡生成 AI 活用ブック」の活用を推進し、揖斐郡におけるICT活用推進の中心的な存在としての機能を高める。